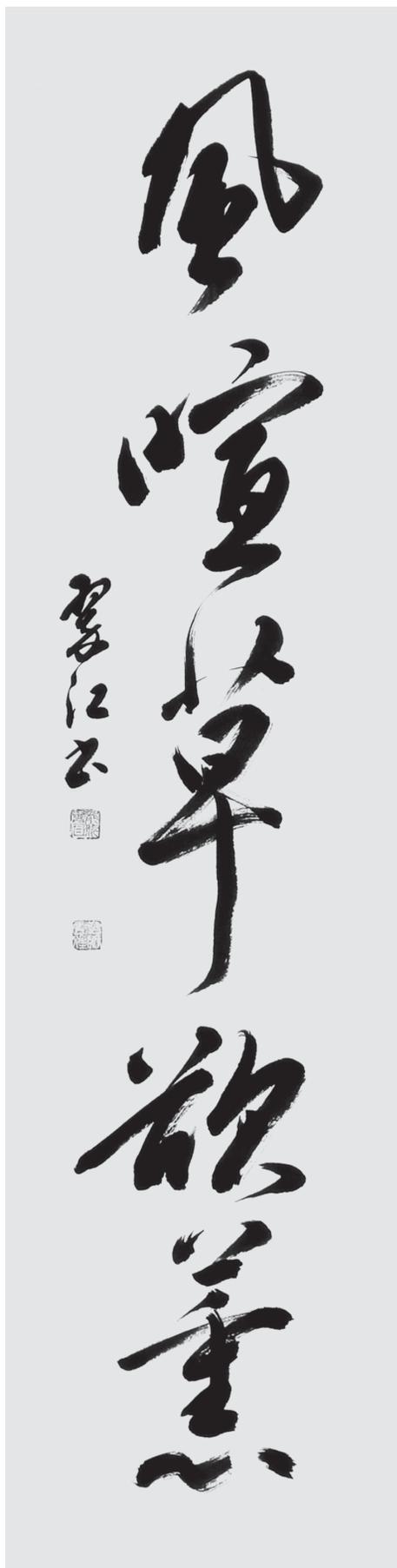


半切四分の一に書くⅡ (15)

締切り 三月二十五日 (必着)



神谷葵水先生書

◎本誌に条幅(半切)の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のこと、その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ(約六八cm×十七、五cm)で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。平成二十六年にも一年間学びましたので、今回はパートⅡになります。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕風喧草欲薫(宋・王安石の詩句)

〔大意〕風あたたかに吹きそよぎ、草は匂いたつ。

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤濁も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べることが肝要です。

・落款(署名・印)も作品の一部です。丁寧に取めましょう。印のない方は□を赤ペン又は朱墨で書いて下さい。

〔作品の出し方〕

▼毛筆部Ⅱ条幅半切四分の一(約六八cm×十七、五cm)に書いて下さい。

▼硬筆部ⅡB5版(二五七mm×一八二mm)以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。(フェルトペン・筆ペン可)

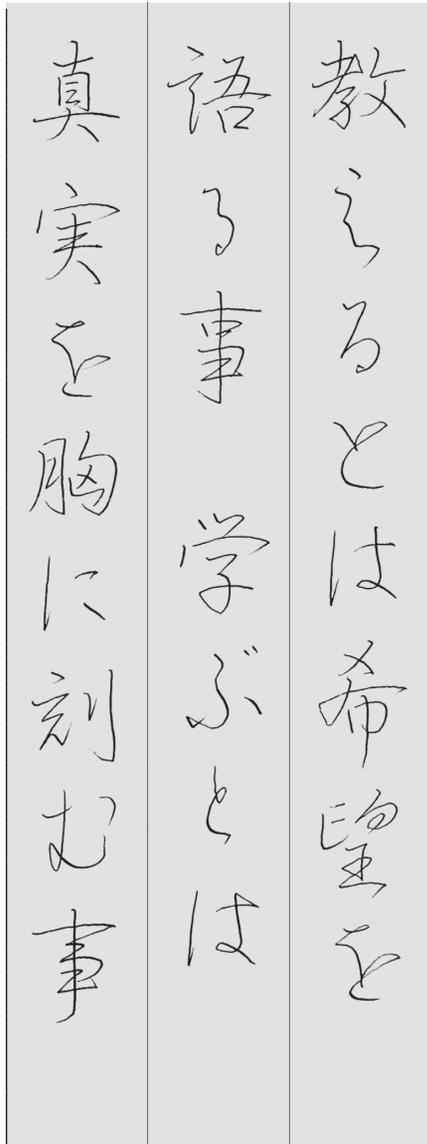
▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで



奥村暢之書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

◎行書と一口にいても、楷書に近いものから草書に近いものまで様々なくずし方があります。豊かな表現のために、一種類だけでなく、二種、三種と行書体のバリエーションを増やしたいものです。いつも手元に字典(できれば数冊)を置いて、小まめに引くことが大切です。現代の常用漢字の標準字体からではなく、歴史的な手書き文字「書写体」からのくずし字もありますので、書写体の楷書とともに覚えると一石二鳥です。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

[解説]



大谷清城書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★人生の：(書体Ⅱ楷書)

坂口安吾(一九〇六〜一九五五)  
小説家

人生は心の持ちようによって、楽しかったり、苦しかったり、また退屈だったりします。

苦しみばかりが重なると、身も心も疲れてしまい、若い人でも老けこませてしまいます。その時々で、気持ちを切り替える工夫が必要でしょう。

◆4月課題予告(行書)

辛さは時に  
愚かという事の  
裏返しである

★教える：(書体Ⅱ行書)

アラゴン(一八九七〜一九八二)  
フランスの詩人

教えるということは、教える相手の成長に希望を託す行為です。学ぶということは、その期待に応えることで、学ぶ側に実意がなければなりません。単位取得のために授業を受けるのと、学びたいという目的意識をもって学ぶのとでは大きな違いがあります。

◆4月課題予告(楷書)

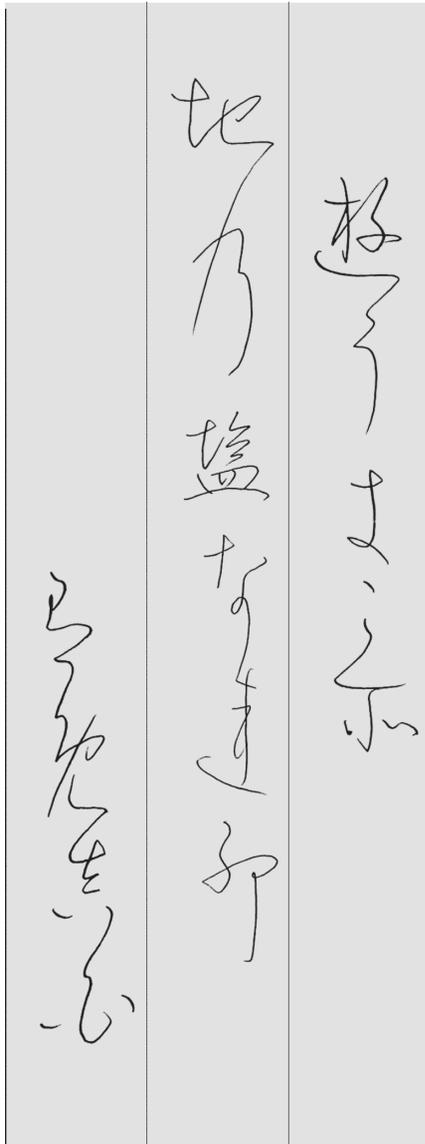
良い本を読まない人は  
字の読めない人と  
等しい ソクラテス

▼教範・書範Ⅱ行草または草書

▼師範Ⅱ行書

準初段から六段まで

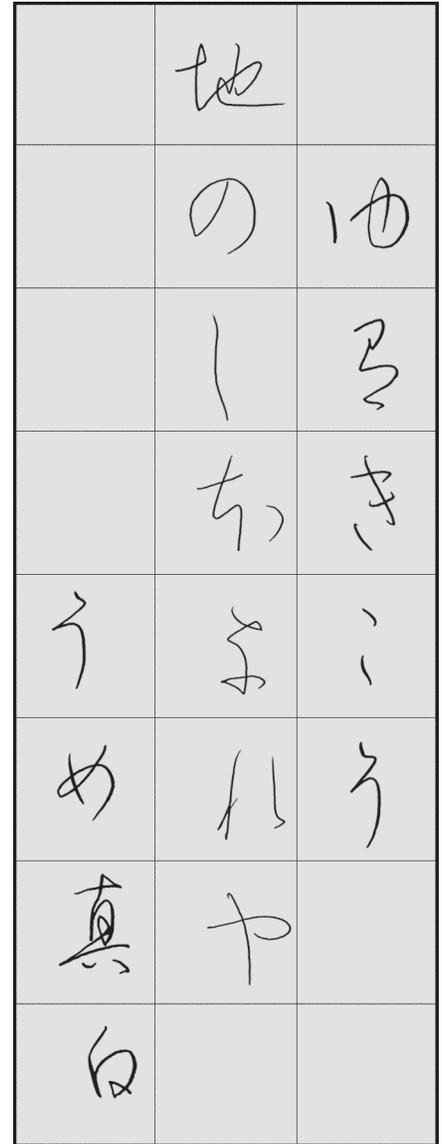
新入から1級まで



遊<sup>う</sup>有<sup>う</sup>曾<sup>そ</sup>耶<sup>や</sup>免<sup>め</sup>  
勇氣こそ地の塩なれや梅真白

遊<sup>う</sup>有<sup>う</sup>曾<sup>そ</sup>耶<sup>や</sup>免<sup>め</sup>  
勇氣こそ地の塩なれや梅真白

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



た なか き こう 書  
田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

た なか き こう 書  
田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

勇氣こそ地の塩なれや梅真白  
(中村草田男)

〔句解〕勇氣こそが「地の塩」のように、人の世の腐敗を防ぎ止めるものである。折からその象徴のように、寒さの中で凛々しく、真っ白に咲いている。〔鑑賞〕昭和十九年作。戦争末期の重苦しい空気の中で、勇氣の必要を常日ごろ痛感していた作者が、梅の凛たる白さに触発されて一句を成したのである。梅の白さと塩の白さとの共通性も考えられる。前書に「出陣近き教へ子に次の一句を示す」と。教へ子にも作者自らにも確認している感じがする。

〔古筆参考〕

遊 有 曾 耶 免  
遊 有 曾 耶 免  
遊 有 曾 耶 免  
遊 有 曾 耶 免  
遊 有 曾 耶 免

〔解説〕段の方の一行目、中心線を通して、へへへへへへへへへと書いてみて下さい。

◆4月課題予告

花杏受胎告知の翹音びび

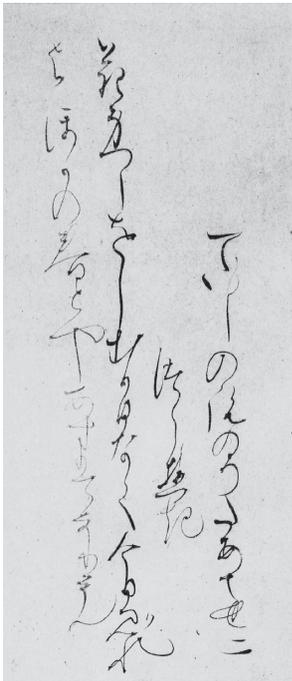
(川端茅舎)

締切り 三月二十五日(必着)

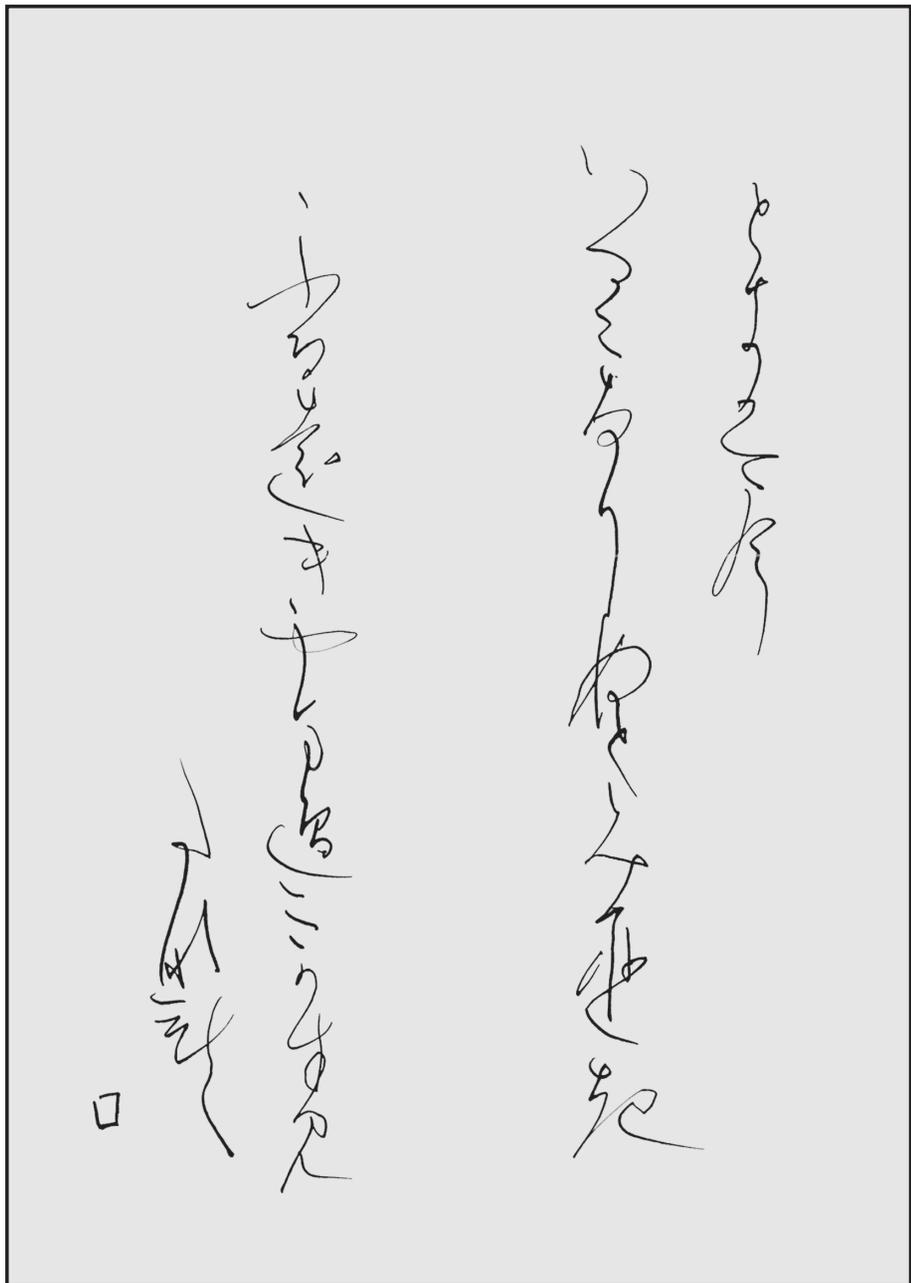
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

香紙切こうしきれ



ていしの院のうたあはせに  
 徒遊起 つらゆき  
 花みつゝをしむかひなく今日見れ  
 ばほかの春とやあすはなりなん  
者可 寸盤奈利奈(七)

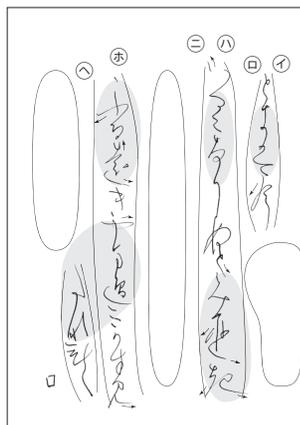


時はいま春になりぬとみ雪降る  
支離 今八る二奈 遊起ふ  
 遠き山べに霞たなびく  
や万遍二可す見多那飛

〔歌意〕季節はもう春になったというので、雪の降り積もる遠い山のあたりにも霞がたなびいているよ。

〔出典〕新古今和歌集  
 (新潮日本古典集成)

〔解説〕



- ①と②、①と③、②と③、②と④、③と④、それぞれ呼応。
- ・ 行のふくらみと揺れ大切。
- ・ 〵の方向大切。
- ・ ○余白大切。
- ・ ●の動き大切。

◆4月課題予告  
 春過ぎて夏来にけらし白妙の衣ほすてふ天の香具山

締切り 3月25日(必着)

希望の大学に合格とは、おめでとう。  
今までの努力が報われ良かったね。  
正に「三界は唯心の所見」、私の  
座右の銘です。何時も心に念じて  
いる事は、必ず実現するという言葉  
です。大いに頑張ってください。

希望の大学に合格とは、おめでとう。  
今までの努力が報われ良かったね。  
正に「三界は唯心の所見」、私の  
座右の銘です。何時も心に念じて  
いる事は、必ず実現するという言葉  
です。大いに頑張ってください。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

二月堂の御水取りがすめば春と  
いう季節感が奈良の人々にはある。

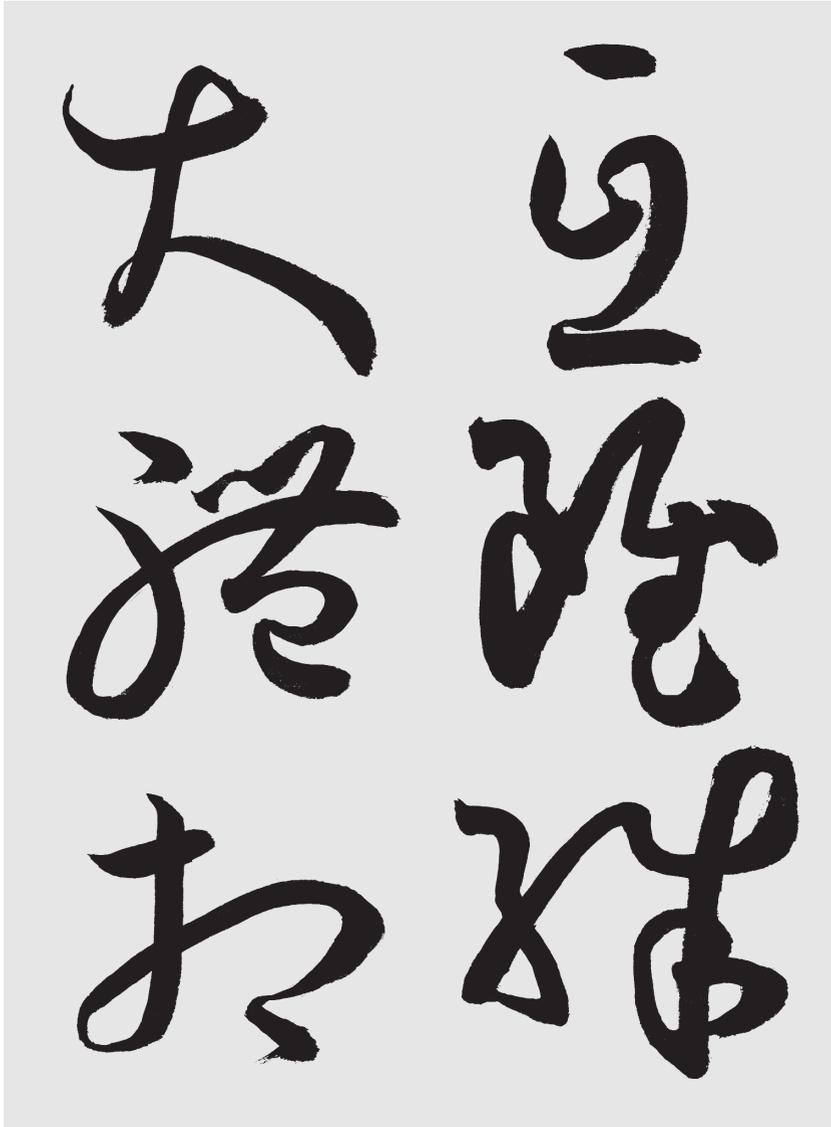
群馬県富岡市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 3月25日(必着)

互  
雖  
殊  
大  
體  
相



〔出典〕書譜(687)〔筆者〕孫過庭(648?~703?)  
〔読み〕(廻) 互かいしてご殊ことなるといえど雖だいたいも、あ大体はわた相り(渉る)

準初段から師範まで

奥村暢之臨



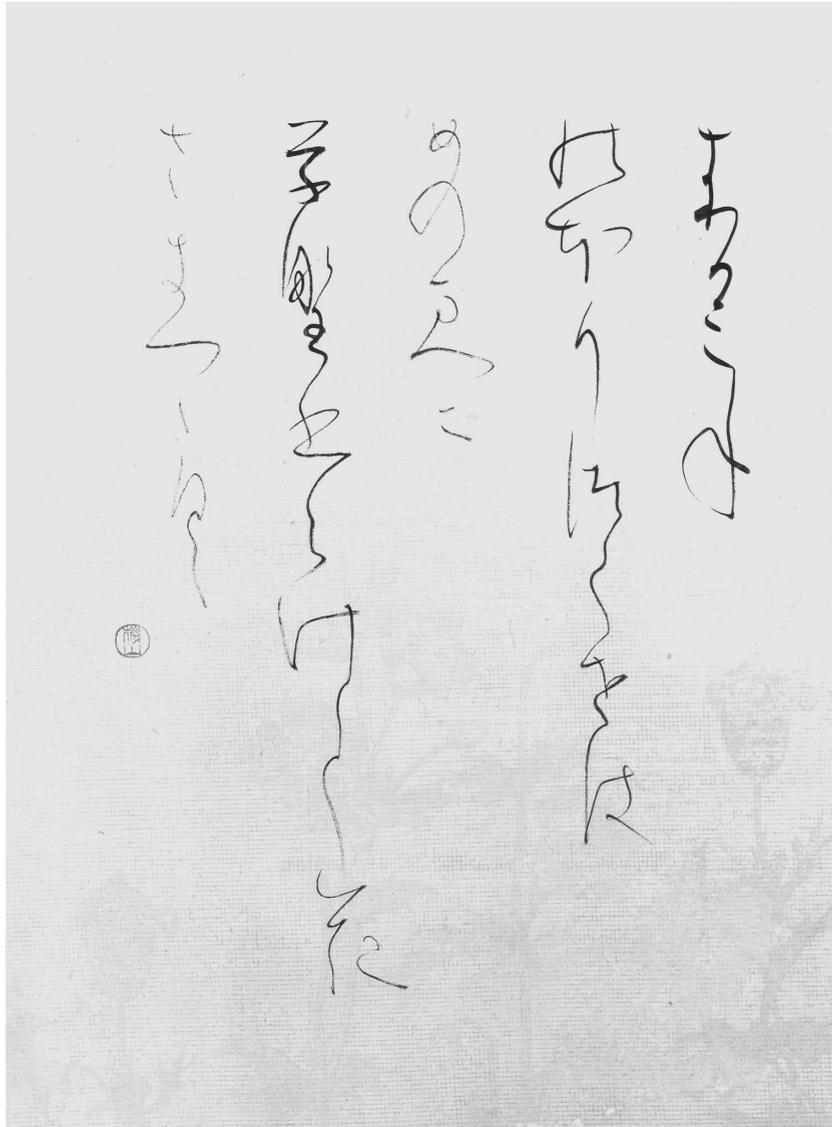
〔読み〕しゅんぶつおのずからせいび春物自清美  
〔大意〕万物は春になると自然に清く美しくなる。

新入から1級まで(楷書)

須田一葉書

# 一般部毛筆かな課題

締切り 3月25日(必着)



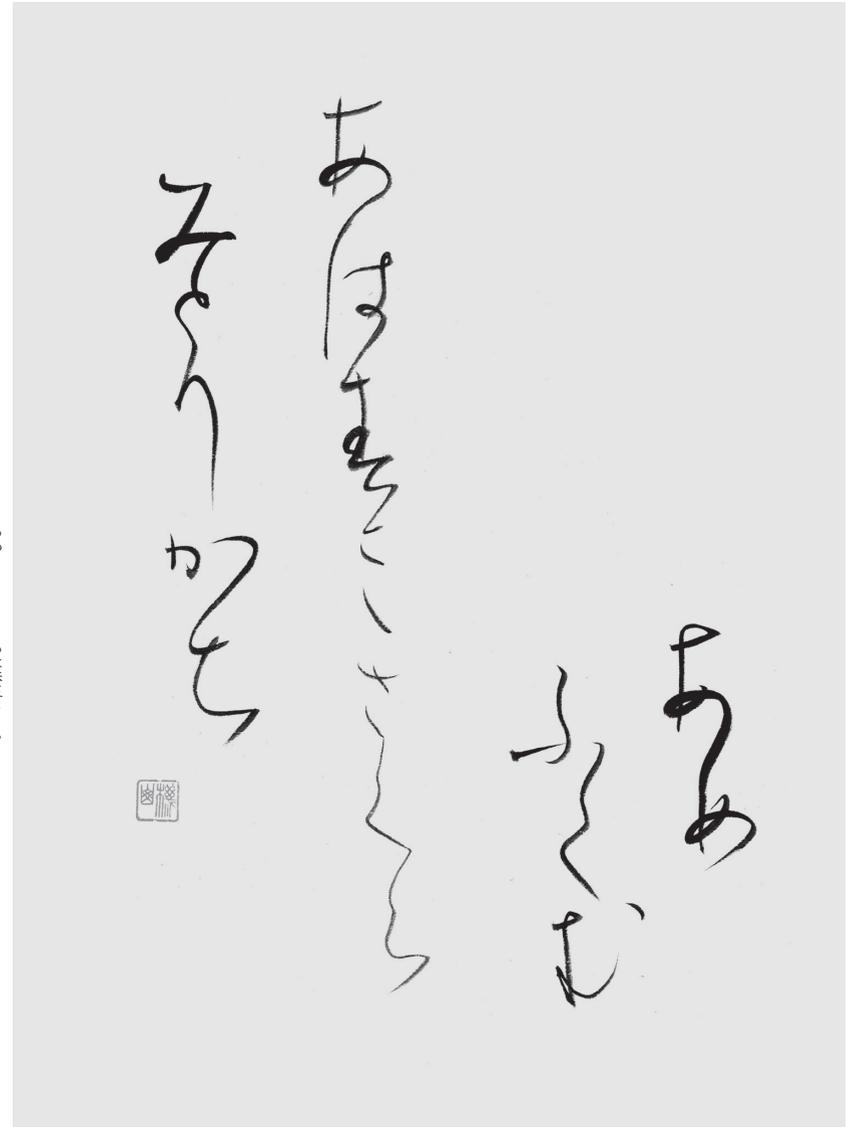
文利可三年能本  
霧が峰のぼりつくせばめの前に  
草野ひらけて花さきつづく

〔出典〕 しま き あかひこ  
島木赤彦

〔歌意〕 霧が峰の山路を登りつくすと、眼前に一面の草原がひらけ、花が咲きつづいている。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



あめ  
雨ふくむ  
あは春さくら  
淡墨桜みどりがち

〔出典〕 すぎ た ひさじょ  
杉田久女

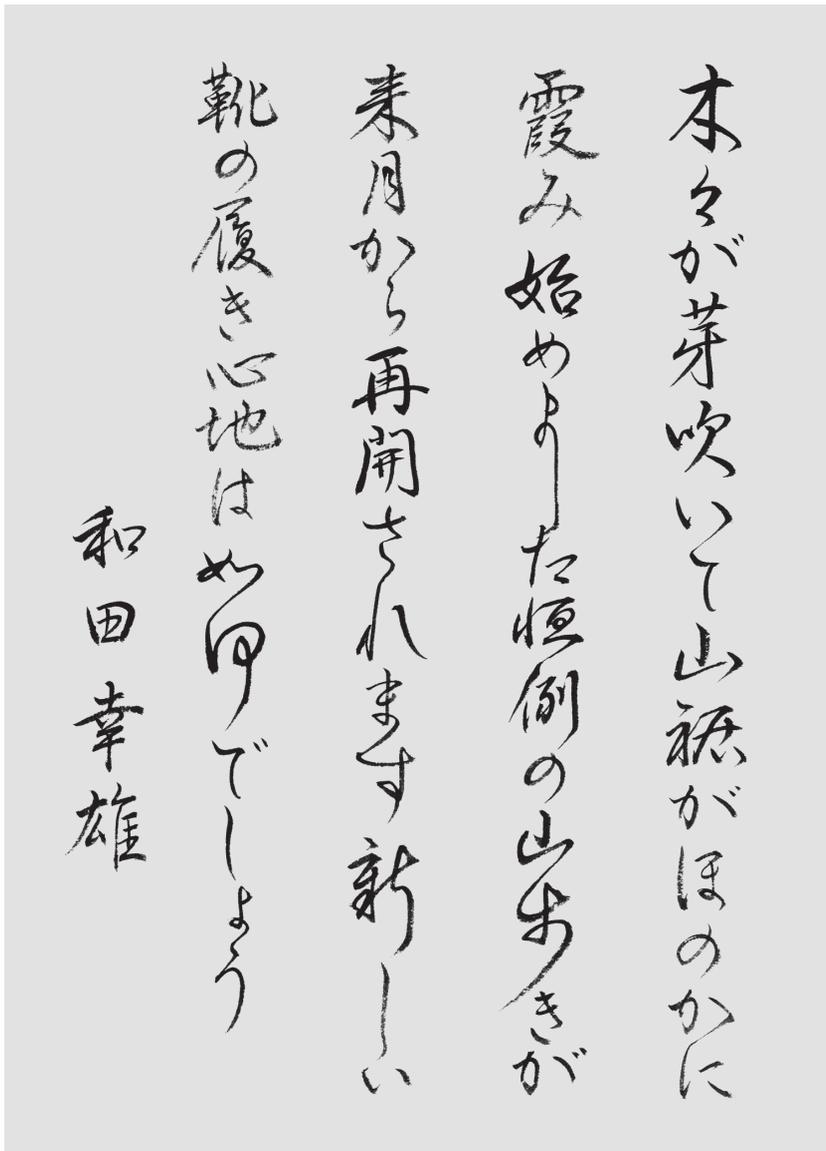
〔句意〕 小雨の降る中を淡墨桜うすずみざくらが咲いている。花は雨をふくんでみどり色が目立つというのである。淡墨桜の花の淡い緑色をよんだ句。

新入から1級まで

あさ  
浅井  
い  
機  
き  
山  
先生書  
ざん

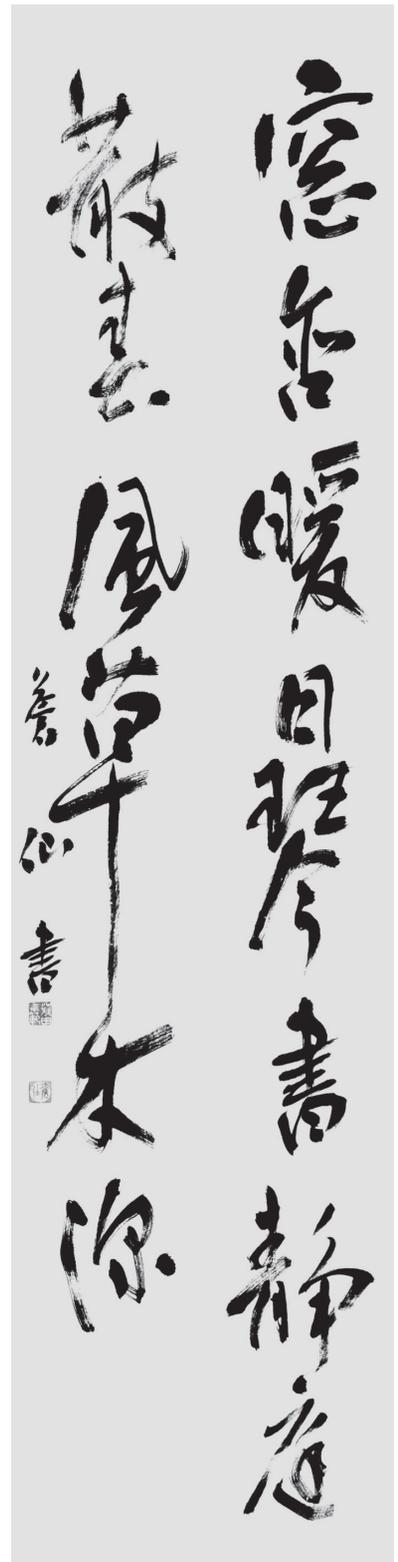
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

伊藤梅香 書



締切り 三月二十五日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻田蒼仙 書

- [条幅・細字作品の出し方]
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績 (天位〜5等) は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

・印で墨つきしました。  
 ( ) 自分の氏名

木々が芽吹いて山裾がほのかに  
 霞み始めました 恒例の山歩きが  
 来月から再開されます 新しい  
 靴の履き心地は如何でしょう

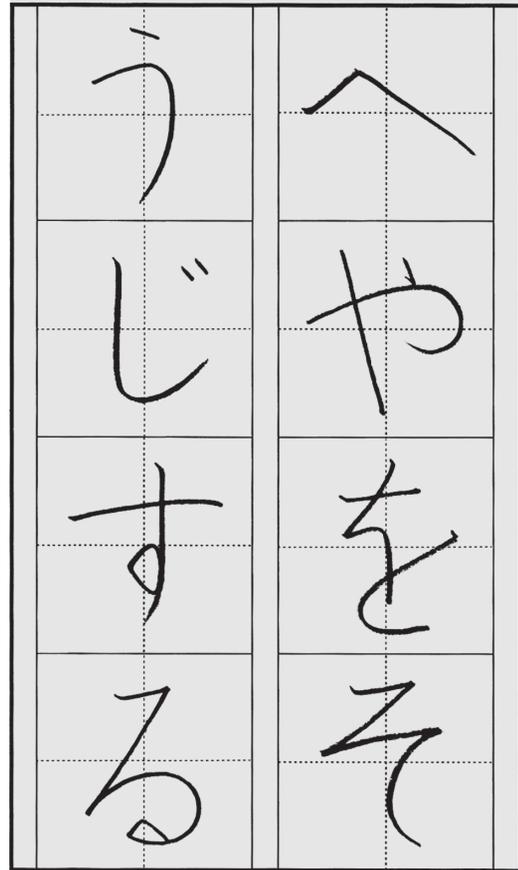
〔条幅解説〕習字は整正美で起筆も大体同一方法で可。芸術書道 (高校から) での起筆は筆をどのように入れ、穂先のねじれの多少、方向、送筆の仕方次第で多様な線が決まります。それには先生の書く所を見るのが一番です。

初出品の方へ  
 支部名・会員番号・  
 姓名・毛筆漢字成績  
 を、作品左下に必ず  
 お書き下さい。

〔大意〕書窓は暖かい日光を受けて琴書はもの静かに、庭には春風が吹き渡って草木が深い。

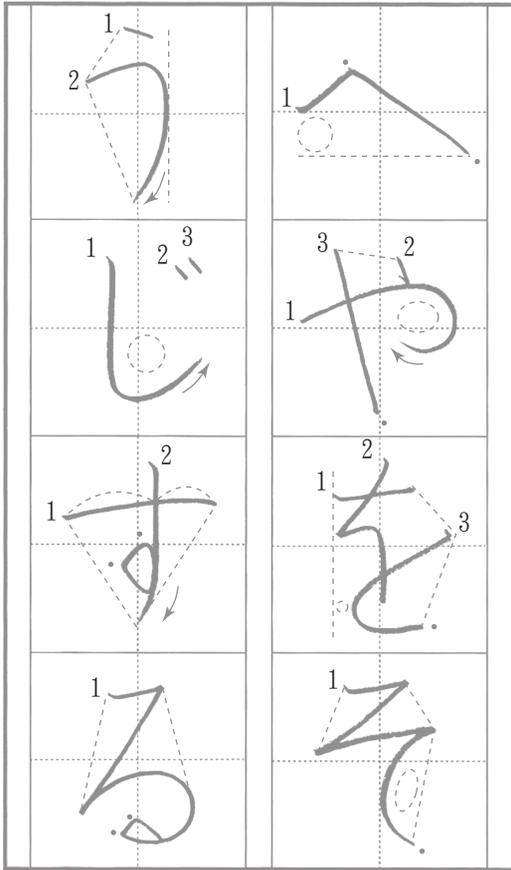
庭散春風草木深  
 窓含暖日琴書静  
 まどはだんじつをひくみきんしよはものしずかに  
 にわにはしゅんぷうさんじてそうちくふかし  
 趙璣

よ  
う  
年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)

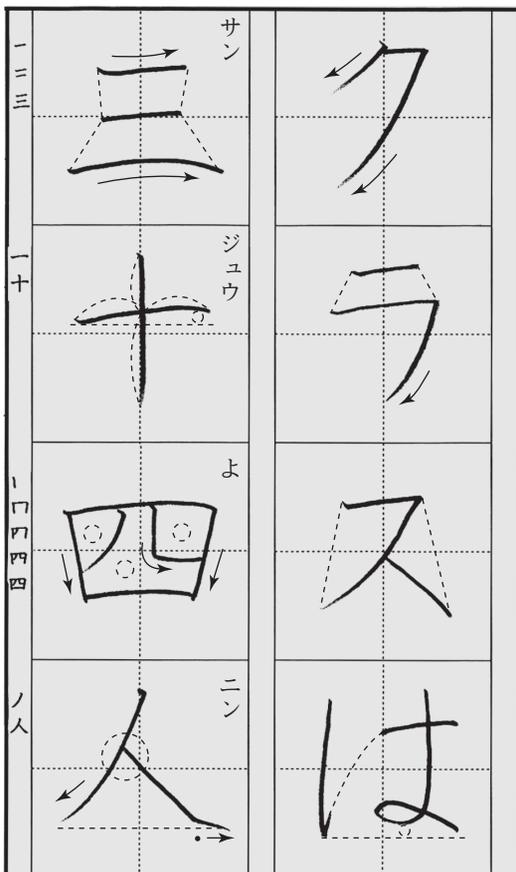
小  
一  
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準  
初  
段  
以  
上

新入〜1級



幼年〜小三年まで  
三宅容玉書

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

を	上
た	下
し	の
算	数

上: ジョウウ  
下: ゲ  
算: ザン  
数: かず

一ト上  
一ト下

竹筭算算  
著者数

新入〜1級

し	字	上
て	を	と
答	た	下
え	し	の
る	算	数

小二年

準初段以上

全	文
て	庫
読	本
む	を

全: すべ  
文: ブン  
庫: コ  
本: ボン

今全全  
文  
一十才木本

読読読読

新入〜1級

を	お	学
全	か	級
て	れ	文
読	た	庫
む	本	に

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

小四年

友	な	明
達	声	る
が	で	く
好	笑	元
き	う	気

準初段以上

新入〜1級

て	元
笑	気
う	な
友	声

〈用具〉自由(黒色に限る)

小五年

る	一	空
菜	面	は
の	に	快
花	広	晴
畑	が	で

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

広	空
菜	快
花	晴
畑	面

小四年以上  
岡嶋桂川書

用具自由(黒色に限る)

うがが族族	族 ゾク	習習習習	習 ヨク
温温温温	温 オン	週週週週	週 シュウ
泉泉泉泉	泉 セン	末末末末	末 マツ
族族族族	族 リョ(コウ)	家家家家	家 カ

解説(よく見て習いましょう)

温	族	習
泉	そ	週
旅	ろ	末
行	つ	に
へ	て	家

小六年

(全員)

え	の	恩
る	気	師
手	持	へ
紙	ち	感
を	伝	謝

中二・三年

(行書)

を	に	散
調	咲	歩
査	く	中
す	草	も
る	花	春

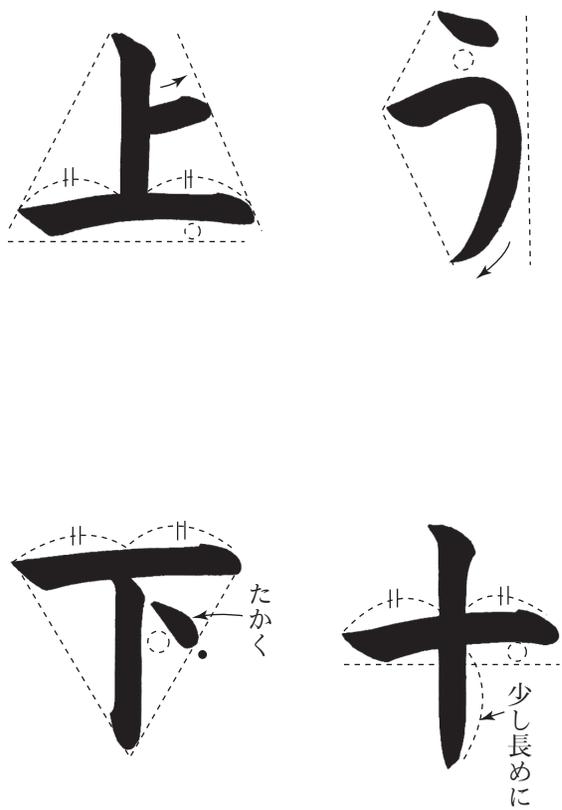
中一年

(行書)





幼年〜小二年  
水野碧友書



小五  
花菜  
畑の

む本  
小三  
読

気

本

菜

読

畑

元

小四  
な元  
声気

小三〜小五年  
たまきしょうか  
樹小華書

中二・三  
 感謝の手紙の

小六  
 家族旅行

小六〜中二・三年  
 水野の香竹書

咲

家

中一  
 春にく花に咲

※筆順注意

感

族

謝

春